

景況調査

報告書 NO. 59

平成25年 4月～6月 実績
平成25年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成25年度第1四半期(H25. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成25年6月5日～21日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 115[108企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	49 (3)	9 (2)	16 (1)	26	10 (1)	5	115 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△16.5、前期実績(1～3月・△31.3)と比較すると14.8ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前期比は△10.5、前期実績(1～3月・△29.6)に比較すると19.1ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△5.3、前期実績(1～3月・39.8)と比較すると34.5ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△20.0、前期実績(1～3月・△35.6)と比較すると15.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H25.7～9月)見通し**については△11.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △10.5)と比較すると0.8ポイントの下降であった。

「**製造業**」のうち食料品は、原材料高と海外製品との競争のなか比較的堅調であった。織物は、ジャガード・インテリア関連は厳しい状況。寝装関係は夏物が5月まで順調だったが、ひと段落。漁網・ロープは、ロープ関連の復興需要は大幅に減少し生産・販売とも下降傾向。その他の分野(建築・土木・スポーツ等)は例年並みを維持。鉄工のうち、工作機械関係は国内生産は一進一退も円安効果で好転しつつある。自動車部品関連は新車・HV車効果で操業率は維持も、今後の増産は不透明。化学・プラスチックのうち、化学は円安で収益改善。プラスチックは原材料高による利幅縮小で苦しい。

「**建設業**」は、公共工事は需要期を抜け、民間工事もさほど大きな動きはなし。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、<産業資材関連>商品の動きは鈍い。売上は、前期比では、横バイか落ちるぐらい、前年同期比でも同様。全体の消費が落ち込んでおり、景気の回復が感じられないのが現状<寝装関連> 気候変動が激しく5月までは夏物絶不調。この所の高気温で動きが出た。<インテリア関連> 初夏の商品の動きが悪く厳しい状況。円安による原材料高・加工代の改正要望で採算に影響。5月以降はシーズンオフ。<衣料関連> 5月の低温で春夏物の荷動きが鈍い。特定商品には動きはあるも、全体的に盛夏物成約は低調。各段階で在庫過剰気味。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-16.5	-5.3	-2.6	H24. 4～6月実績	-7.9	-18.1	-18.9	-26.7	-12.6	-19.7	-15.7
②製品・商品在庫	-13.0	-11.3	-13.1	H24. 7～9月実績	-29.4	-21.8	-33.6	-32.8	-32.0	-29.4	-25.3
③資金繰り	-11.3	-15.7	-13.1	H24. 10～12月実績	-31.6	0.8	-35.8	-15.9	-33.3	-25.8	-29.2
④採算(収益)	-28.7	-20.0	-27.0	H25. 1～3月実績	-32.2	-39.8	-39.3	-35.6	-31.3	-29.6	-15.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	7.8	2.6	0.9	H25. 4～6月実績	-16.5	-5.3	-28.7	-20.0	-16.5	-10.5	-11.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.5	-10.5	-11.3								

「**小売業**」は、消費全体の動きが鈍い。原材料価格上昇等によるコストアップを販売価格に転嫁しきれず収益が圧迫されている。飲食は、状況にあまり変化はなく、お屋のランチ客は入るが、夜の一般客は少ない。石油等その他小売は、一時下落に転じた原油価格は、地政学的リスクへの警戒・米雇用統計の改善もあり、最終的には90ドル台半ばで推移。世界経済の緩やかな回復基調で展開に注視。

「**サービス業**」のうち旅館関係は、宿泊者数はGW好調も期間統計では前年比微減。ラグーナ蒲郡の「ジブリ」、形原温泉「あじさい祭」で日帰り観光客は増加も、宿泊に結び付ける工夫が必要。

「**運輸通信業**」 貨物輸送は、輸送量全体は概ね横バイ。輸出は微増の回復基調。輸入は木材等の原材料輸入がユーザーの事業停止で大きく減少したが、製造業全体に動きが戻った事でエネルギー需要が高まりコークスが増加。なお、完成車輸出台数は、欧州向けは伸び悩むも、北米向けが再開で増加。バス業界関係 景気は少しずつ持ち直しの傾向だが安近短の傾向は変わらず。日帰りが中心で、宿泊もお値打ちプランは良好。

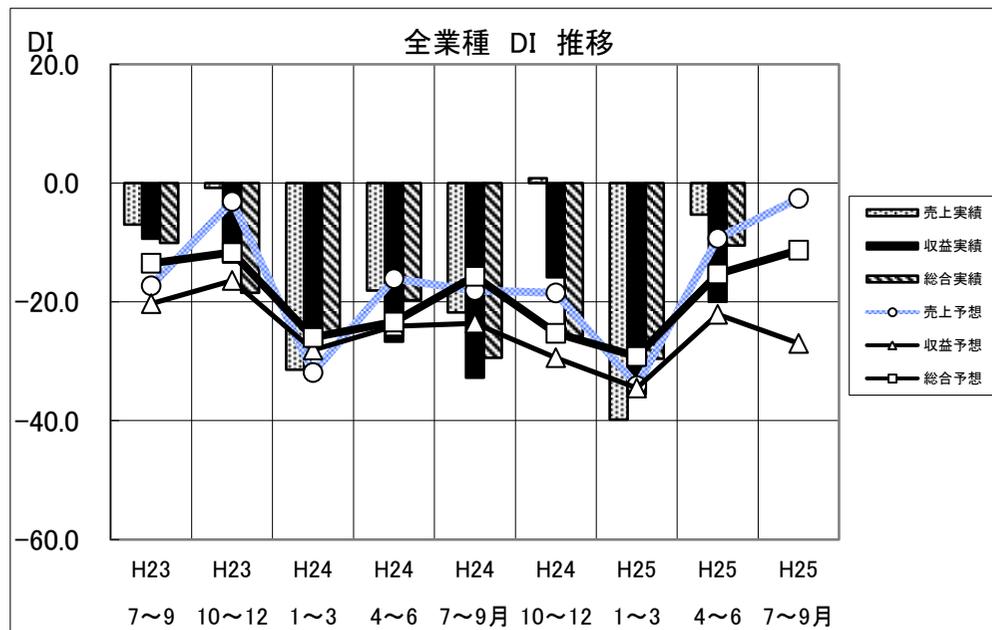
設備投資状況は、27事業所(37件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は27事業所(39件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、原材料(燃料)高、消費者ニーズの変化の対応が項目別で上位を占めていた。

当地区において 円安の影響で、製造業を中心とした輸出関連の生産は堅調も、原材料高・利幅縮小を懸念する声も多く、まだ景気回復の実感は得られず。新政権の打ち出す施策を、当地域の成長力として取り込みたい。当所としてもアクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-7.0	-0.8	-31.4	-18.1	-21.8	0.8	-39.8	-5.3	-2.6
収益	-9.4	-13.4	-27.7	-26.7	-32.8	-15.9	-35.6	-20.0	-27.0
総合	-10.1	-18.5	-25.6	-19.7	-29.4	-25.8	-29.6	-10.5	-11.3

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)

資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)

従業員数 :DI=(増加)ー(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

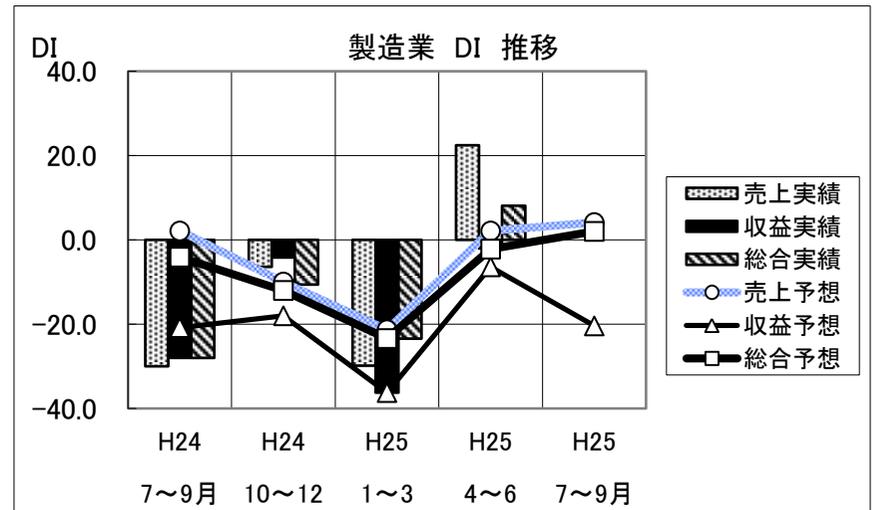
売上DI値は22.4、前期実績1～3月期(△29.8)に比して52.2ポイントの上昇、収益DI値は△2.1、前期実績1～3月期(△36.2)に比して34.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△8.1、前期実績1～3月期(△23.4)に比して31.5ポイントの上昇と、収益は僅かに水面下ながら、売上・総合は改善傾向である。

向こう3カ月の見通し 収益は厳しいが、売上・総合は引き続き堅調である。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	4.0	22.4	4.1
②製品・商品在庫	-12.3	-8.1	-12.3
③資金繰り	0.0	-6.1	-6.1
④採算(収益)	-14.3	-2.1	-20.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	24.5	16.3	4.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-8.2	8.1	2.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-30.0	-6.4	-29.8	22.4	4.1
収益	-28.0	-4.2	-36.2	-2.1	-20.4
総合	-28.0	-10.6	-23.4	8.1	2.0

[食料品]

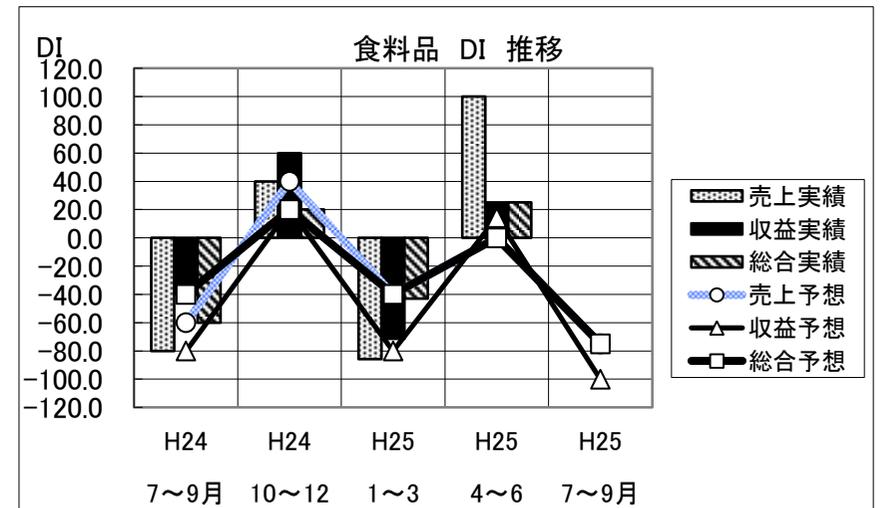
売上は、前期比DI値は100.0%と改善しているものの、前年同期比ではDI値△25.0%と悪化。収益でも、前期比DI値は25.0%と改善しているが、前年同期比でDI値△25.0%と悪化。前期の厳しい状況から好転しているが、原材料価格の上昇を訴える企業も多い。総合判断では、前期比DI値は25.0%と好転しているが、前年同期比ではDI値△50.0%と悪化。

向こう3カ月の見通し 売上はDI値△75.0%、収益DI値△100.0%、総合判断DI値△75.0%と業況は厳しくなることが予想される。国内の食品業界は、海外製品との競争にさらされているが、原材料コストの負担感が高まるなど厳しい経営環境下において、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。市内飲食店等と連携して地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業も見られ、今後地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	100.0	-75.0
②製品・商品在庫	25.0	25.0	-25.0
③資金繰り	25.0	25.0	-25.0
④採算(収益)	-25.0	25.0	-100.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	25.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	25.0	-75.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-80.0	40.0	-85.7	100.0	-75.0
収益	-40.0	60.0	-71.4	25.0	-100.0
総合	-60.0	20.0	-42.9	25.0	-75.0

【織物】

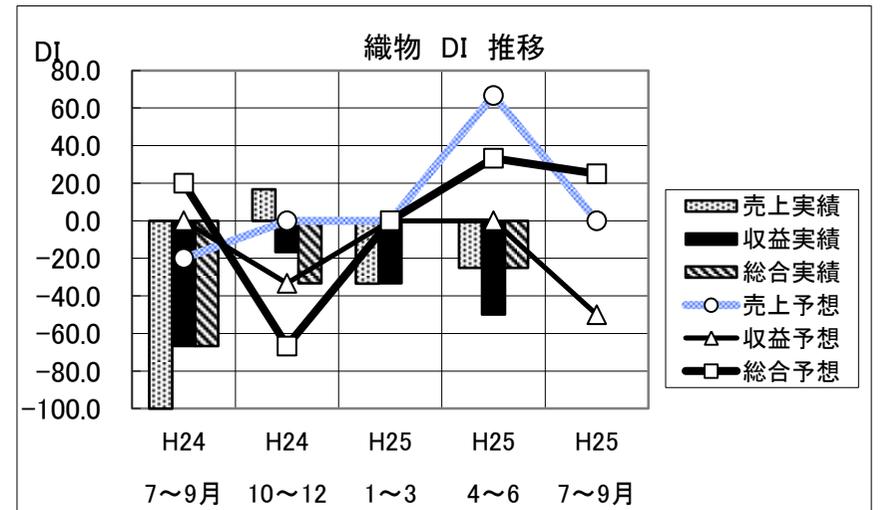
ジャガード・インテリアは変わらず厳しい状況。寝装関係は夏物が5月まで順調だったが、ひと段落して期間中の稼働率はトータルで6割程度。産業資材は横バイであった。

向こう3カ月の見通し 非常に厳しい時期を迎える。寝装関係も、当産地のメインである春夏商材が終わり、稼働率は3～4割程度に落ち込む見込み。産業資材は自動車関連需要に左右されるが横バイの見込みである。三河産の綿花で製品づくりに取り組む「ミカワ・コットン・プロジェクト」は試作品の製作が進んでおり、小ロットながら高付加価値商品として展開したい。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-25.0	0.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-25.0
③資金繰り	-25.0	-25.0	-25.0
④採算(収益)	-75.0	-50.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-75.0	-25.0	25.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-100.0	16.7	-33.4	-25.0	0.0
収益	-66.7	-16.6	-33.3	-50.0	-50.0
総合	-66.7	-33.3	0.0	-25.0	25.0

【漁網・ロープ】

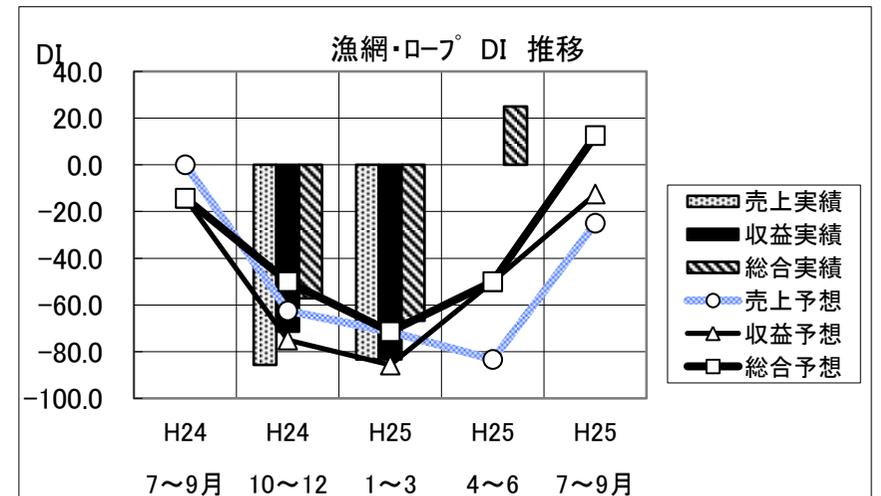
ロープ関連の復興需要は大幅に減少し生産・販売とも下降傾向。その他の分野(建築・土木・スポーツ等)は例年並みを維持。

向こう3カ月の見込み 建築ネット・土木関係は活発になる事が予想される。漁網は魚価安および不漁により低迷。円安による原材料高で利幅縮小が継続する見込み。(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-75.0	0.0	-25.0
②製品・商品在庫	-75.0	-37.5	-25.0
③資金繰り	-12.5	-12.5	0.0
④採算(収益)	-75.0	0.0	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-62.5	25.0	12.5



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	-85.7	-83.3	0.0	-25.0
収益	0.0	-71.4	-83.3	0.0	-12.5
総合	0.0	-57.1	-66.7	25.0	12.5

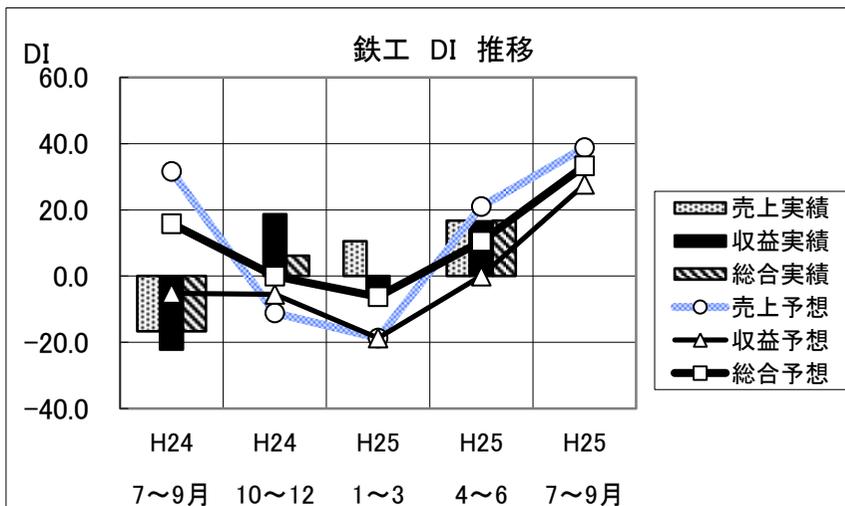
[鉄工]

<工作機械関係> 国内生産は一進一退で生産計画を注視。受注は、世界中でデフレが止まらず、機械受注統計も通常ペース1,000億円を割り込み半年以上が経過したが、今年に入り2月(808億円)3月(903億円)4月(814億円)5月(970億円)と回復の兆候も。アベノミクスに伴う円安効果が表れている。向こう3カ月の見通し 国内生産はアベノミクスで受注増加傾向。生産計画も増加の見込み。特に今年後半の生産計画に期待。受注は各社とも増加傾向だが、中国の景気後退による影響を懸念。欧州の受注は依然として厳しい。主な輸出先は北米、東南アジア等自動車の工場建設、増産で、アメリカの早期景気回復に期待。ここに来て受注は国内、輸出とも増加傾向。

<自動車部品関係> 生産は自動車各社とも新車・HV車の効果で操業率は維持も、今後の増産は不透明。親会社の“原価低減活動”が一段と厳しさを増した。向こう3カ月の見通し 生産は、各社とも新車効果による増産・コストダウンで収益確保も、いま一段の増産は疑問。安倍政権への期待は大きい。基調としては海外生産、特に北米・東南アジアが増産、国内生産は現状維持で今後とも国内増産計画には期待薄。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	27.7	16.7	38.8
②製品・商品在庫	5.5	0.0	-5.5
③資金繰り	5.6	5.5	11.1
④採算(収益)	22.2	16.6	27.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	27.8	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	16.6	16.7	33.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-16.7	0.0	10.5	16.7	38.8
収益	-22.2	18.7	-5.3	16.6	27.7
総合	-16.7	6.2	0.0	16.7	33.3

[化学・プラスチック]

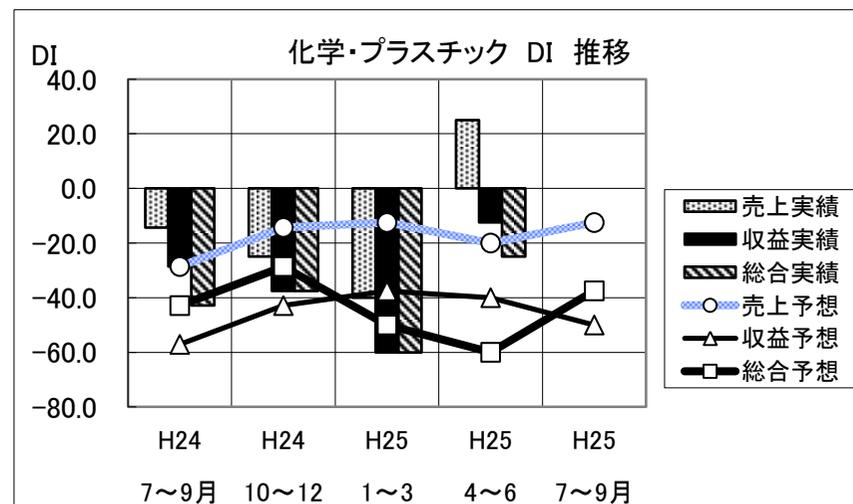
<化学工業> 円安傾向で収益が改善された。向こう3カ月の見通し 円安による原材料価格の高騰が懸念される。

<プラスチック> 円安による原料価格の高騰で利幅が減少し、非常に苦しい現状。

向こう3カ月の見通し 円安が続く事が予想され、利幅がさらに減少していくと思われる。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	25.0	-12.5
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-12.5
③資金繰り	0.0	-12.5	-25.0
④採算(収益)	0.0	-12.5	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	-25.0	-37.5



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.3	-25.0	-40.0	25.0	-12.5
収益	-28.6	-37.5	-60.0	-12.5	-50.0
総合	-42.9	-37.5	-60.0	-25.0	-37.5

建設業

売上DI値は△22.2、前期実績1～3月期(△25.0)に比して2.8ポイントの上昇、収益DI値は△44.4、前期実績1～3月期(△25.0)に比して19.4ポイントの下降、総合判断DI値は△11.0、前期実績4～6月期(0.0)に比して11.1ポイントの下降。売上・収益・総合とも水面下の依然として厳しい状況が続く。公共工事は需要期を抜け、民間工事もさほど大きな動きはなし。

向こう3カ月の見通し 売上は改善も収益・総合は悪化、国土強靱化や民間投資の活性化を標榜する現政権の積極的な施策展開、また消費税増税の駆け込み需要による公共・民間工事の増加に期待。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-11.1	-22.2	11.1
②製品・商品在庫	-11.1	0.0	0.0
③資金繰り	-11.1	-22.2	-22.2
④採算(収益)	-22.2	-44.4	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	11.1	-11.1	-11.1

卸売業

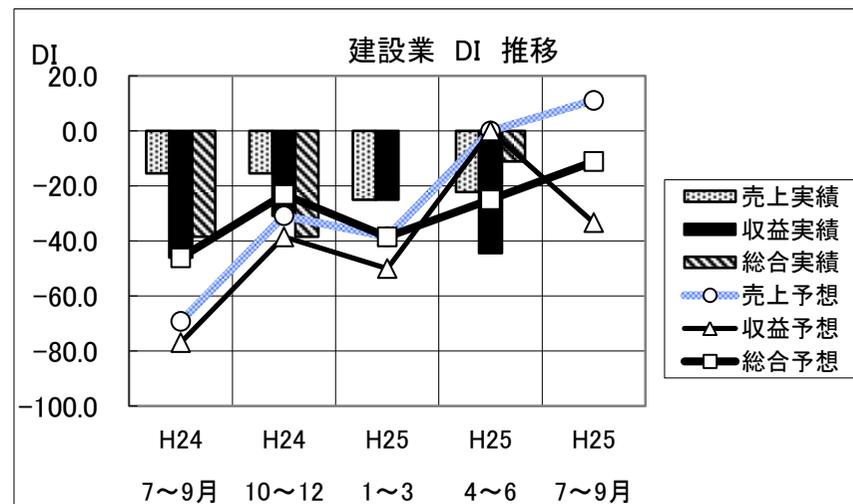
売上DI値は△6.3、前期実績1～3月期(△76.5)に比して70.2ポイントの上昇。収益DI値は△12.5、前期実績1～3月期(△52.9)に比して40.4ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3月期(△52.9)に比して52.9ポイントの上昇と、売上・収益・総合共は改善傾向にあるも水面下の状況。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに水面下で見通しは不透明である。

卸売業

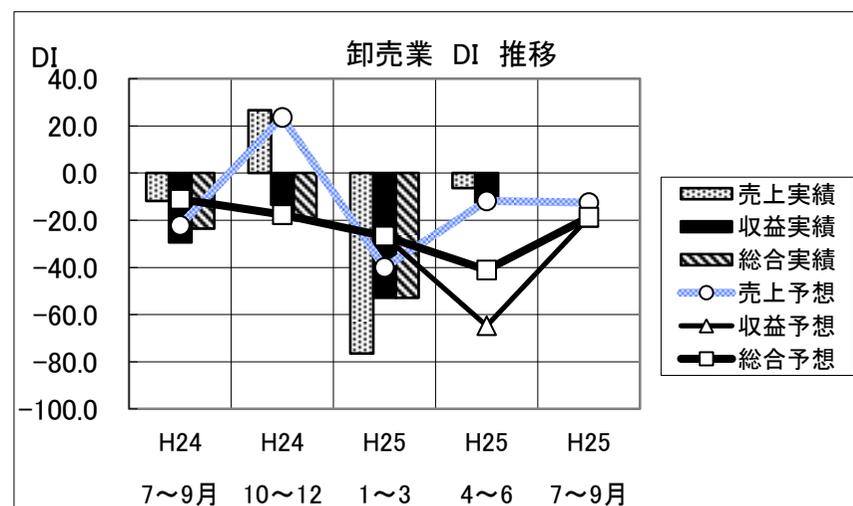
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-31.2	-6.3	-12.5
②製品・商品在庫	-18.7	-25.0	-31.3
③資金繰り	-6.2	6.2	0.0
④採算(収益)	-43.7	-12.5	-18.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-18.7	-6.2	-6.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	0.0	-18.7



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-15.4	-15.4	-25.0	-22.2	11.1
収益	-46.1	-30.8	-25.0	-44.4	-33.3
総合	-38.5	-38.4	0.0	-11.1	-11.1



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-11.8	26.6	-76.5	-6.3	-12.5
収益	-29.4	-13.4	-52.9	-12.5	-18.8
総合	-23.5	-20.0	-52.9	0.0	-18.7

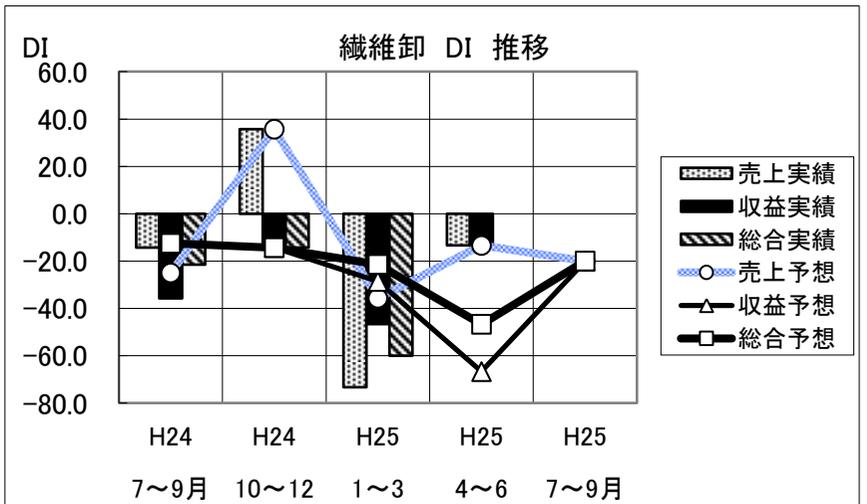
【繊維卸】

<産業資材関連>商品の動きは鈍い。売上は前期比で横バイが微減、前年同期比も同様。全体の消費が落ち込んでおり、景気の回復が感じられないのが現状。向こう3カ月の見通し 夏物の動きに期待も、原材料値上げによる価格転嫁が課題。 <寝装関連>特に気候変動が激しく、5月までは夏物絶不調。6月も関東地方が特に悪い。全国的には、このところの高気温で店頭での動きが多少回復。向こう3カ月の見通し 寝具業界全体では原料(特に羽毛)が2倍以上高騰し影響が大きい。円安の影響も、7~9月に降少しずつ原価が上昇し下期の利益率低下は避けられない。 <インテリア関連>初夏の商品の動きが悪く厳しい状況が続く。円安の影響による原料高。加工代の改正の要望があり、採算に影響する可能性あり。5月以降シーズンオフ。小売業界のトレンドとして卸を入れず直輸入を増やす傾向。向こう3カ月の見通し 円安の影響による原料・加工代の上昇が懸念される。インテリアはシーズンオフとなるため仕事量の確保が必要となる。秋冬の新柄の決定時期となる為、小柄でも多くの決定をする。動きが出てくると思われる住宅新築軒数の動きも不透明。 <衣料関連>5月の低温の為、春夏物の荷動きが鈍い。全体的に盛夏物成約は低調。各段階で在庫過剰気味。一部の売れ筋商品に集中傾向。衣料用のテキスタイルでジャガード、多重ガーゼ、ストレッチの動きが良かった。反面、先染め、プリントは苦戦。向こう3カ月の見通し ジャガード、多重ガーゼの動きは堅調も、円安によるコストアップにより減益は避けられない。インテリア・資材用生地は昨年並み。上代価格に余裕のある高付加価値商品が求められる。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月~6月 に比べて	前期比 平成25年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	-13.4	-20.0
②製品・商品在庫	-20.0	-26.7	-33.3
③資金繰り	-6.6	6.6	0.0
④採算(収益)	-46.6	-13.4	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-6.6	-6.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-13.3	0.0	-20.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.3	35.7	-73.3	-13.4	-20.0
収益	-35.8	-14.3	-46.6	-13.4	-20.0
総合	-21.5	-14.3	-60.0	0.0	-20.0

小売業

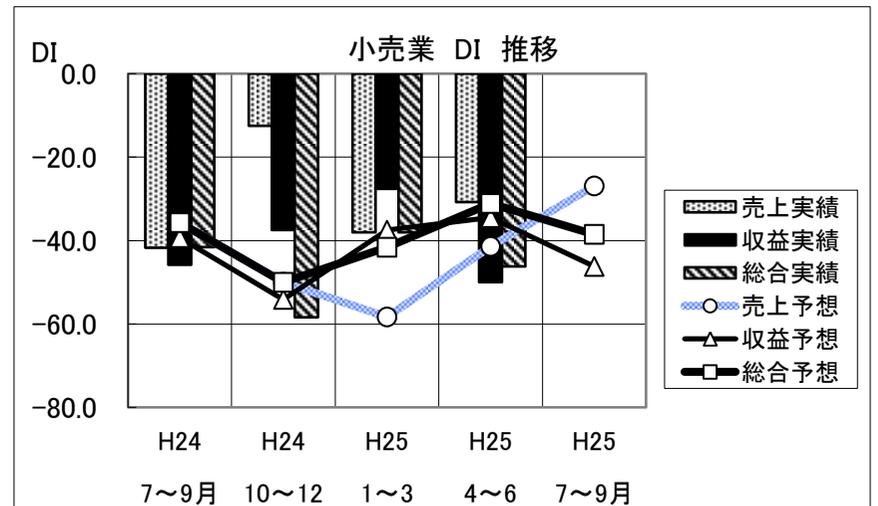
売上DI値は△30.8、前期実績1~3月期(△38.0)に比して7.2ポイントの上昇。収益DI値は△50.0、前期実績1~3月期(△27.6)に比して22.4ポイントの下降、総合判断DI値は△46.2、前期実績1~3月期(△38.0)に比して8.2ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断とも厳しい見通しである。

消費全体の動きが鈍い。原材料価格上昇等によるコストアップを販売価格に転嫁しきれず収益が圧迫されている。向こう3カ月の見通し 夏季のお中元シーズンは例年並みの見通し。夏休み・お盆シーズンの家族需要等もやや不透明である。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月~6月 に比べて	前期比 平成25年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-46.2	-30.8	-26.9
②製品・商品在庫	-15.4	-19.2	-15.4
③資金繰り	-34.6	-42.3	-30.8
④採算(収益)	-50.0	-50.0	-46.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	3.9	-3.8	-3.8
⑥貴社の業況(総合判断)	-38.5	-46.2	-38.5



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-41.7	-12.5	-38.0	-30.8	-26.9
収益	-45.8	-37.5	-27.6	-50.0	-46.2
総合	-41.6	-58.4	-38.0	-46.2	-38.5

[飲食]

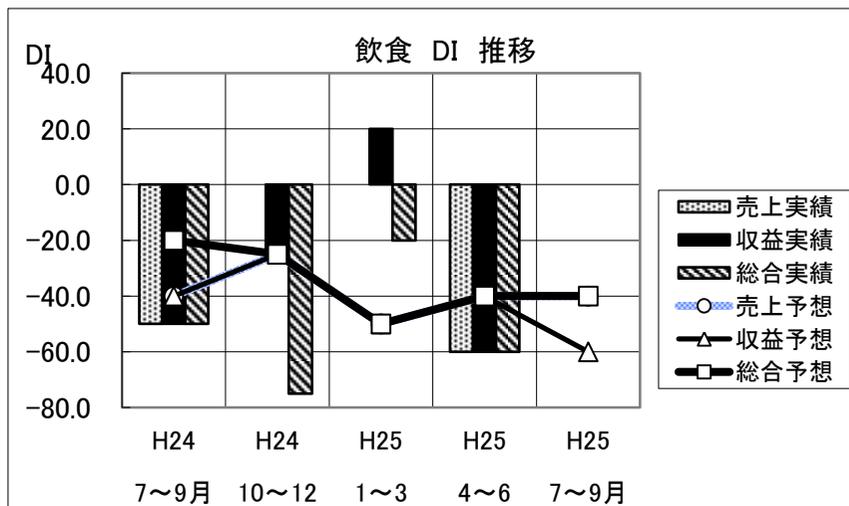
状況にあまり変化はなく、お昼のランチ客は入るが、夜の一般客は少ない。夜は、歓送迎会等の予約が大半で、少人数・小グループでの宴会ではあるが大変ありがたいと思っている。6月の「あじさい祭」は蒲郡のメインイベントの1つであり、紫陽花を見に来た観光客が地元飲食店に立ち寄って貰える傾向にある。今後も継続して実施して頂きたいし、宣伝には協力していきたい。

向こう3カ月の見通し 夏の時期は、蒲郡に多くの観光客が訪れる。地元客の入りは変わらないかもしれないが、観光客に立ち寄って貰えるようニーズを捉えたメニュー作りなど努力をしていきたい。近年では、インターネット検索をして来店して貰える人が多くなってきている。勿論、今迄通りのパンフレット・チラシも重要であり、地元客の口こみも重要で欠かせないものではあるが、時代の変化に対応してインターネットも有効に活用していきたい。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	-60.0	-40.0
②製品・商品在庫	-20.0	0.0	0.0
③資金繰り	-60.0	-60.0	-40.0
④採算(収益)	-80.0	-60.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	-60.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-50.0	0.0	0.0	-60.0	-40.0
収益	-50.0	-25.0	20.0	-60.0	-60.0
総合	-50.0	-75.0	-20.0	-60.0	-40.0

[石油等その他小売]

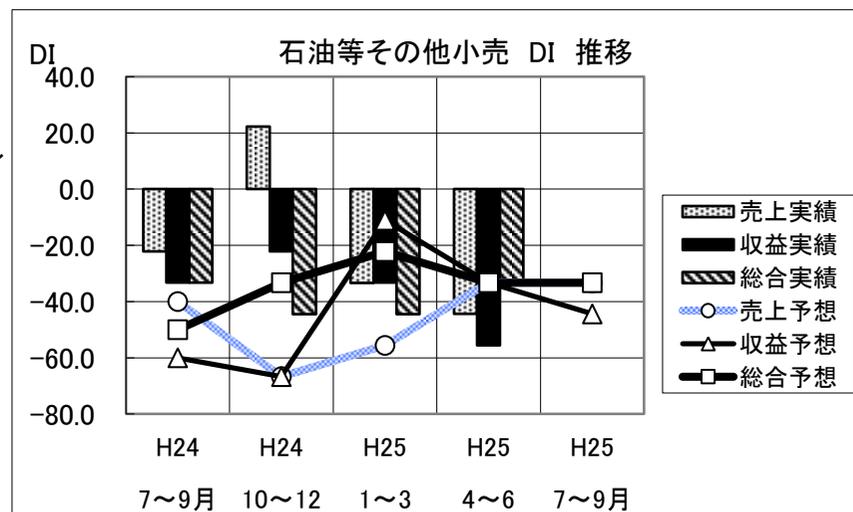
米雇用統計や小売売上高が弱い結果となったこと等から、原油価格は下落に転じ、4月半ばには、約4か月ぶりに90ドル台を割り込んだ。4月下旬には、地政学的リスクへの警戒等が買い材料となり、原油価格は反発。5月に入ると、米雇用統計の改善もあり、一段と上昇、90ドル台半ばで推移している。

向こう3カ月の見通し 世界経済は緩やかに回復するとみられるなか、原油需要については、緩やかな増加が予想される。供給面では、米国のシェールオイル増産が世界全体の需給を緩和させることが見込まれる。原油価格は、米国の増産による供給面からの価格下押し圧力を受けつつも、横バイ圏内で推移すると予想される。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-22.2	-44.4	-33.3
②製品・商品在庫	-11.1	-11.1	-11.1
③資金繰り	-11.1	-44.4	-33.3
④採算(収益)	-33.4	-55.6	-44.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-33.3	-33.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-22.2	22.3	-33.4	-44.4	-33.3
収益	-33.3	-22.2	-33.3	-55.6	-44.4
総合	-33.3	-44.5	-44.5	-33.3	-33.3

サービス業

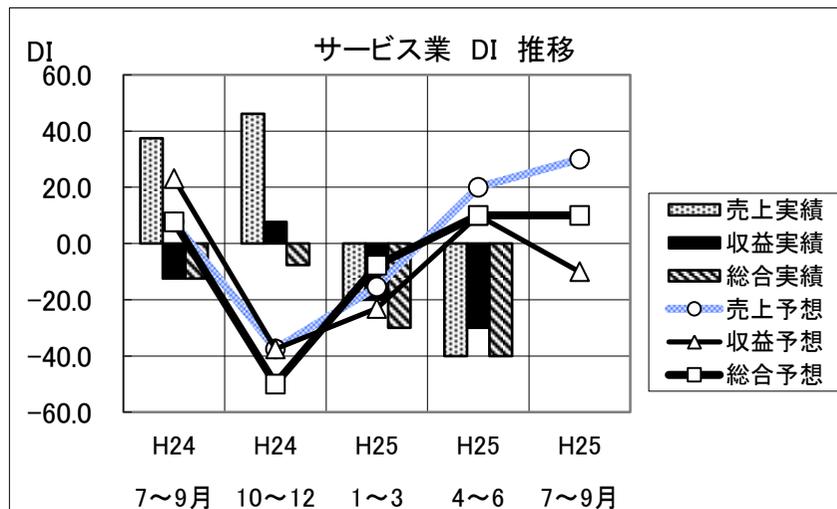
売上DI値は△40.0、前期実績1～3月期(△20.0)に比して20.0ポイントの下降、収益DI値は△30.0、前期実績1～3月期(△20.0)に比して10.0ポイントの下降、総合判断DI値は△40.0、前期実績1～3月期(△30.0)に比して10.0ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 夏休みを迎える来季は観光のハイシーズンを迎え、売上・総合判断は改善傾向にあるが、収益は厳しい見込み。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-30.0	-40.0	30.0
②製品・商品在庫	-10.0	0.0	0.0
③資金繰り	-30.0	-30.0	-20.0
④採算(収益)	-20.0	-30.0	-10.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-30.0	-40.0	10.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	37.5	46.1	-20.0	-40.0	30.0
収益	-12.5	7.7	-20.0	-30.0	-10.0
総合	-12.5	-7.7	-30.0	-40.0	10.0

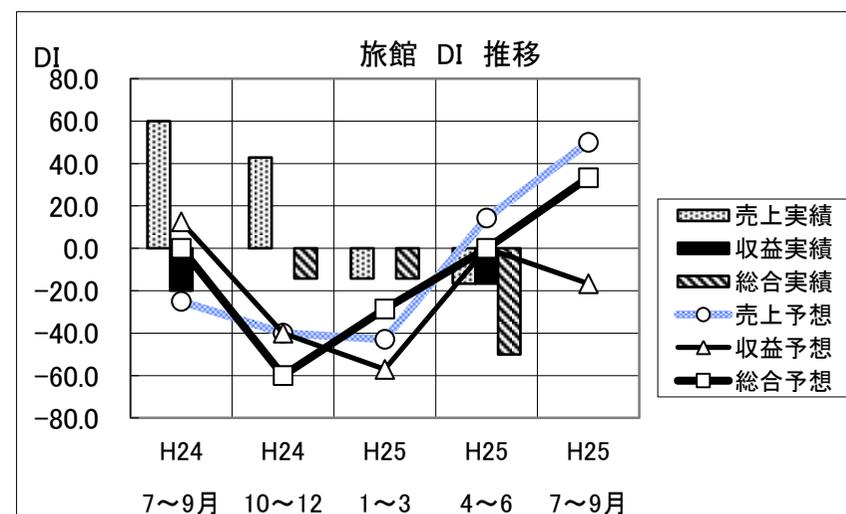
[旅館]

5月は長期連休等の好条件もあり前年対比増も4～6月期全体では微減。ただし、例年閑散期である6月でも、日帰り客で売上増の旅館・ホテルもある。各施設で自助努力が必要。スタジオリブの「立体造形物展」の開催中のラグナシアは前年対比を大幅アップが、日帰り客が主流で宿泊への影響はさほど大きくないため、宿泊に結び付ける仕掛けづくりを考えている。形原温泉でのあじさい祭り関係の宿泊は例年並み。しかし、近隣地域で競合もあり例年通りの販促でなく、新たな付加価値を付ける努力が必要。向こう3カ月の見通し 夏は「海のみち」蒲郡のトップシーズン。家族連れをターゲットに、ラグーナ蒲郡や蒲郡オレンジパークと連携する他、三河大島や西浦パームビーチ等の海水浴とセットとした2泊3日の滞在型プランを進めたい。本年度の共通宿泊プランは、チラシでなくネット販売に特化させた。実際にネット予約は増加傾向で、個人化・間際予約等の現状とマッチしている。広告に比べネットはプラン等の変更・更新が手軽で、タイムリーな販促がうてる。こはぜの会(蒲郡温泉郷の女将)や蒲郡若旦那's(蒲郡温泉郷の若旦那)等の活動も支援し、新たな魅力づくりやメディア展開を図りたい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	-16.7	50.0
②製品・商品在庫	-16.7	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-33.3	-16.7
④採算(収益)	0.0	-16.6	-16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.6	-16.6	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-50.0	33.3



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	60.0	42.8	-14.3	-16.7	50.0
収益	-20.0	0.0	0.0	-16.6	-16.7
総合	0.0	-14.3	-14.3	-50.0	33.3

運輸通信業

売上DI値は△40.0、前期実績1～3月期(△71.4)に比して31.4ポイントの下降、収益DI値は△0.0、前期実績1～3月期(△57.1)に比して57.1ポイントの上昇、総合判断DI値は20.0、前期実績1～3月期(△14.3)に比して34.3ポイントの上昇と、収益・総合は回復、売上は水面下ながら改善傾向である。

向こう3カ月の見通し 売上は横バイ。収益・総合は悪化の傾向である。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-40.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	20.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-40.0	0.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-20.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	20.0	-20.0

[旅客・貨物輸送・水運]

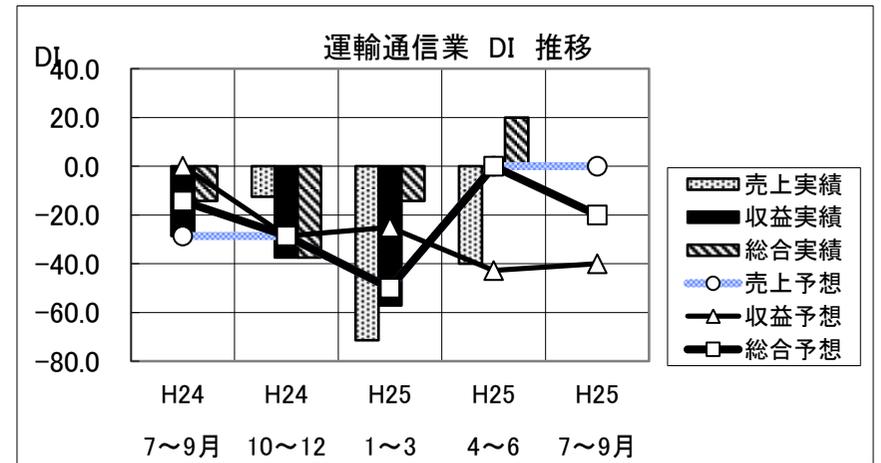
<貨物輸送> 輸送量全体は概ね横バイ。輸出は対前年比微増の回復基調。輸入は木材等の原材料輸入がユーザの事業停止で大きく減少したが、製造業全体に動きが戻った事でエネルギー需要が高まりコークスが増加。なお、完成車輸出台数は、欧州向けは伸び悩むも、北米向けが再開で増加。向こう3カ月の見通し 国内の荷動きは円安と株高を背景に好転の兆しも、本格化までは少し時間が必要。輸出は対前年比で好調のまま推移する見込み。輸入は、木材は低調に推移するも、コークスは変わらず好調で推移する見込み。輸出は、完成車輸出が堅調に推移する見通しである。

<バス業界関係> 景気は少しずつ持ち直しの傾向だが安近短の傾向は変わらず。日帰りが中心で、宿泊もお値打ちプランは良好。向こう3カ月の見通し 夏休み前の出控え、観光客が動きにくい選挙等も控えているが、夏に向けバスの受注状態も上がりつつある。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

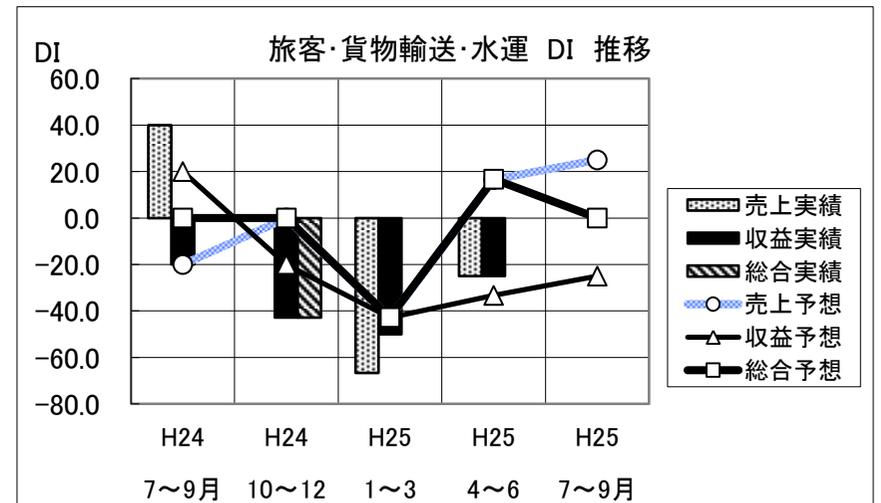
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年4月～6月 に比べて	前期比 平成25年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成25年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	-25.0	25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	25.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-25.0	-25.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-25.0	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	-12.5	-71.4	-40.0	0.0
収益	-28.6	-37.5	-57.1	0.0	-40.0
総合	-14.3	-37.5	-14.3	20.0	-20.0

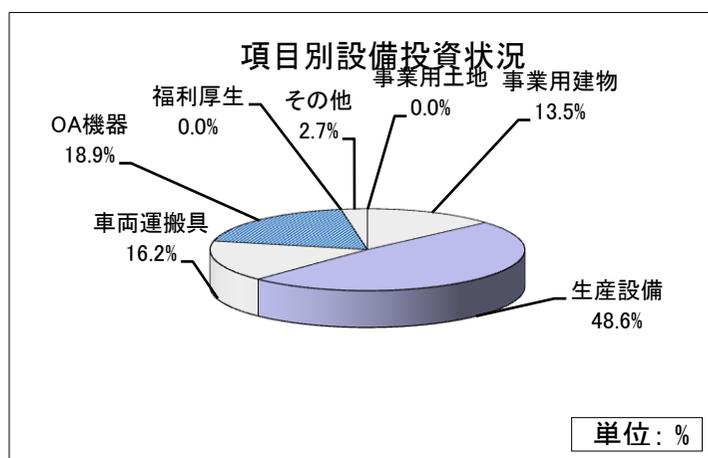
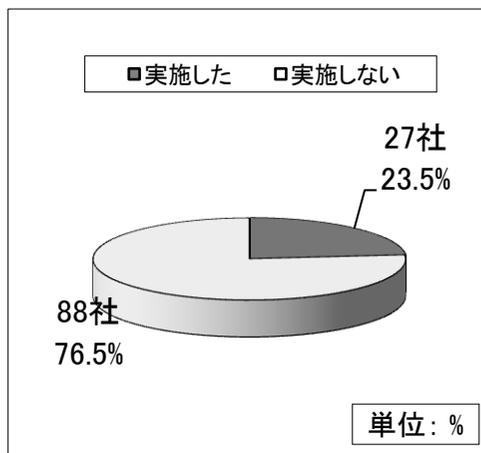


<業況判断DIの推移>

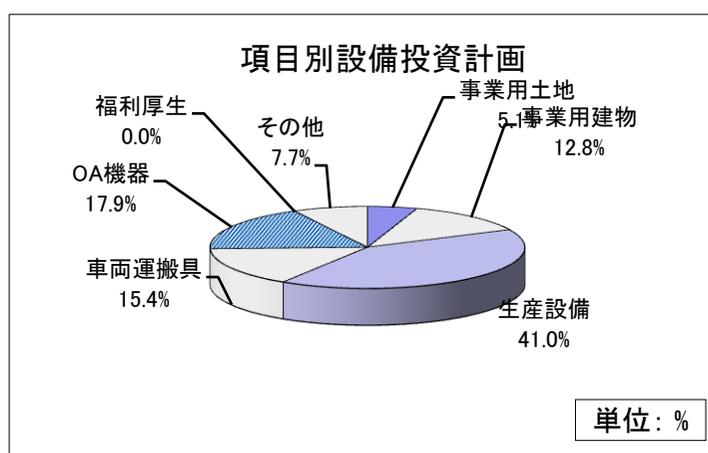
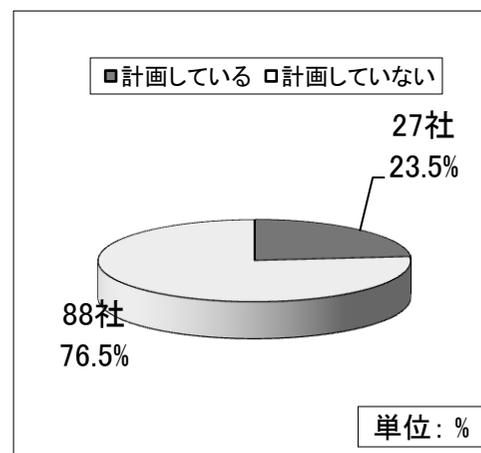
	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	40.0	0.0	-66.7	-25.0	25.0
収益	-20.0	-42.8	-50.0	-25.0	-25.0
総合	0.0	-42.8	0.0	0.0	0.0

7. 設備投資動向

＜今期(H25. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H25. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	0	2
事業用建物	5	5
生産設備	18	16
車両運搬具	6	6
OA機器	7	7
福利厚生	0	0
その他	1	3
計	37	39

(単位: 件)

◎今期(H25.4～6月)、来期(H25.7～9月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H25. 4～6月)	27	19	1	2	1	2	2
2. 来期 (H25. 7～9月)	27	16	0	4	1	2	4

(単位: 事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 115 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	67 58.3%
2	利幅の縮小	60 52.2%
3	競争激化	49 42.6%
4	原材料(燃料)高	49 42.6%
5	消費者ニーズの変化の対応	14 12.2%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 49 社	原材料(燃料)高 29 社 59.2%	利幅の縮小 24 社 49.0%	売上の停滞・減少 23 社 46.9%
建設業 9 社	利幅の縮小 8 社 88.9%	競争激化 7 社 77.8%	売上の停滞・減少 4 社 44.4%
卸売業 16 社	売上の停滞・減少 13 社 81.3%	原材料(燃料)高 10 社 62.5%	利幅の縮小 9 社 56.3%
小売業 26 社	売上の停滞・減少 17 社 65.4%	競争激化 13 社 50.0%	利幅の縮小 13 社 50.0%
サービス業 10 社	売上の停滞・減少 7 社 70.0%	顧客の他地域への流失 5 社 50.0%	競争激化 3 社 30.0%
運輸通信業 5 社	売上の停滞・減少 3 社 60.0%	競争激化 3 社 60.0%	利幅の縮小 3 社 60.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.59

番号	調査項目	単位	H25. 7報告	基準日	H25. 4報告	基準日	H25. 1報告	基準日	H24. 10報告	基準日	出典
1	人口	人	79,917	H25.6.1	80,172	H25.3.1	80,302	H24.12.1	80,386	H24.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,758	H25.6.1	29,684	H25.3.1	29,657	H24.12.1	29,640	H24.10.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	49,912	H25.4.1	50,229	H25.1.1	50,431	H24.10.1	50,431	H24.10.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,083	H25.6.1	2,102	H25.3.1	2,088	H24.12.1	2,119	H24.10.1	〃
5	建築確認届出件数	件	134	H25.3～5月	131	12月～2月	105	9月～11月	111	H24.6～8月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	4.1	H25.4月	4.3	H24.2月	4.1	H24.11月	4.3	H24.7月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.3	H25.1～3月	3.5	H24.10～12月	3.2	H24.7～9月	4.2	H24.4～6月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.90	H25.5月	0.85	H25.2月	0.80	H24.11月	0.83	H24.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.56	H25.5月	0.66	H25.1月	0.63	H24.10月	0.72	H24.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	500.3		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	509.6		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	498.4		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	497.6		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	502.9		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	497.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	491.3		▲ 0.6	396.6
2003年度	平均 350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	490.2		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.3		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	501.7		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	507.3		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	515.5		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,093,519	504.2		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	788,410	471.1		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	813,177	482.3		0.3	322.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.6	66,709			▲ 1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	31.4	62,252	115.7	▲ 1.7	▲ 0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	5.5	63,419			▲ 8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61	2.3	66,757			▲ 3.0	10.8
5月	293	4.5	0.61	16.4	63,726	114.9	▲ 0.5	▲ 1.9	14.2
6月	293	4.6	0.63	12.2	72,687			▲ 4.2	22.5
7月	292	4.7	0.64	▲ 2.3	83,398			▲ 2.1	24.1
8月	276	4.3	0.66	1.0	81,986	116.3	1.4	▲ 4.1	21.6
9月	275	4.1	0.67	5.9	64,206			▲ 1.9	31.3
10月	288	4.5	0.67	▲ 5.8	67,273			▲ 0.4	24.7
11月	280	4.5	0.69	3.9	72,635	123.5	▲ 0.2	▲ 3.2	25.2
12月	275	4.6	0.71	2.6	69,069			0.5	22.1
2012年1月	291	4.6	0.73	14.0	65,984			2.3	26.3
(平成24年)2月	289	4.5	0.75	▲ 9.3	66,928	118.3	1.2	2.3	33.3
3月	307	4.5	0.76	8.8	66,597			3.4	49.7
4月	315	4.6	0.79	8.8	73,647			2.6	20.8
5月	297	4.4	0.81	▲ 7.6	69,638	118.2	0.2	4.0	23.6
6月	288	4.3	0.82	▲ 11.4	72,566			1.6	31.7
7月	288	4.3	0.83	2.1	75,421			1.7	32.8
8月	277	4.2	0.83	▲ 19.2	77,500	115.8	▲ 0.9	1.8	23.2
9月	275	4.2	0.81	▲ 7.9	74,176			▲ 0.9	28.8
10月	271	4.2	0.80	▲ 4.4	84,251			▲ 0.1	22.5
11月	260	4.1	0.80	▲ 1.2	80,145	123.3	0.0	0.2	24.3
12月	259	4.2	0.82	▲ 12.6	75,944			▲ 0.7	21.4
2013年1月	273	4.2	0.85	▲ 27.3	69,289			2.4	22.9
(平成25年)2月	277	4.3	0.85	▲ 15.8	68,969	117.6	1.0	0.8	29.2
3月	280	4.1	0.86	7.0	71,456			5.2	42.0
4月	291	4.1	0.89	▲ 6.3	77,894			1.5	21.3
5月			0.90		79,751				21.9
6月									26.6

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。